



USB AUDIO/MIDI PERSONAL STUDIO

UW500

取扱説明書

安全上のご注意

ご使用前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しています。いずれもお客様の安全や機器の保全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

記号表示について

△ 記号は、危険、警告または注意を示します。

⊘ 記号は、禁止行為を示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

● 記号は、行為を強制したり指示したりすることを示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

* お読みになった後は、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。



警告

この表示内容を見逃した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。



この機器の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。
感電や火災、または故障などの原因になります。異常を感じた場合など、機器の点検修理は必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。



浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。また、本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。感電や火災、または故障の原因になります。



電源アダプターコード/プラグがいたんだ場合、または、使用中に音が出なくなったり異常なおいや煙が出た場合は、すぐに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く。感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。



電源は必ず交流 100V を使用する。エアコンの電源など交流 200V のものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



電源アダプターは、必ず指定のもの (PA-3B) を使用する。(異なった電源アダプターを使用すると) 故障、発熱、発火などの原因になります。



手入れをするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。また、濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。感電のおそれがあります。



電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。感電やショートのおそれがあります。



注意

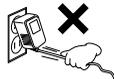
この表示内容を見逃した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定されます。



電源アダプターコードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源アダプターコードに重いものをのせない。電源アダプターコードが破損し、感電や火災の原因になります。

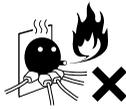


電源プラグを抜くときは、電源アダプターコードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。電源アダプターコードが破損して、感電や火災が発生するおそれがあります。





タコ足配線をしな
い。音質が劣化したり、
コンセント部が異常発熱
して発火したりするこ
とがあります。



使用しないときや落雷のおそれがある
ときは、必ずコンセントから電源プラグ
を抜く。

感電、ショート、発火などの原因になります。



他の機器と接続する場合は、すべての機
器の電源を切った上で行う。また、電源
を入れたり切ったりする前に、必ず機器
のボリュームを最小(0)にする。さら
に、演奏を始める場合も必ず両機器のボ
リュームを最小(0)にし、演奏しながら
徐々にボリュームを上げていき適切な
音量にする。

感電または機器の損傷のおそれがあります。



直射日光のあたる場所(日中の車内な
ど)やストーブの近くなど極端に温度が
高くなるところ、逆に温度が極端に低い
ところ、またほこりや振動の多いところ
で使用しない。

本体のパネルが変形したり内部の部品が
故障したりする原因になります。



テレビやラジオ、スピーカーなど他の電
気製品の近くで使用しない。
デジタル回路を多用しているため、テレビ
やラジオなどに雑音が生じる場合があり
ます。



不安定な場所に置かない。
機器が転倒して故障したり、お客様がけが
をしたりする原因になります。



本体を移動するときは、必ず電源アダプ
ターコードなどの接続ケーブルをすべ
て外した上で行う。

コードをいためたり、お客様が転倒したり
するおそれがあります。



本体を手入れするときは、ベンジンやシン
ナー、洗剤、化学ぞうきんなどは絶対
に使用しない。また、本体上にビニール
製品やプラスチック/ゴム製品などを置
かない。

本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因
になります。お手入れは、柔らかい布で乾
拭きしてください。



本体の上に乗ったり重いものをのせたり
しない。また、ボタンやスイッチ、入
出力端子などに無理な力を加えない。
本体が破損したり、お客様がけがをし
たりする原因になります。



大きな音量で長時間
ヘッドフォンを使用
しない。
聴覚障害の原因になり
ます。



不適切な使用や改造により故障した場合の
保証はいたしかねます。また、データが破損
したり失われたりした場合の保証はいたし
かねますので、ご了承ください。

使用後は、必ず電源を切りましょう。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協会(VCCI)の基準に基づく第二種情報技術装置で
す。この装置は、家庭環境で使用することを目的としてますが、この装置がラジオやテレビジョン受
信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取
り扱いをしてください。



音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にいたし
ましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、
思わぬところで迷惑をかけてしまうことがあります。夜間の演奏には特に気を配りましょう。
窓を開めたり、ヘッドフォンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い
生活環境を守りましょう。

これは日本電子工
業会「音のエチケ
ット」キャンペーンの
マークです。

ヘッドフォンをご使用になる場合には、耳をあまり刺激しないよう適度な音量でお楽しみく
ださい。

ごあいさつ

このたびは、ヤマハ USB AUDIO/MIDI パーソナルスタジオ UW500 をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

UW500 は、オーディオデータと MIDI データの同時転送を可能にした USB インターフェイスです。USB 端子装備のコンピュータと接続して、パワフルなデジタルオーディオをお楽しみください。

UW500 の優れた機能を使いこなしていただくために、この取扱説明書をご活用いただきますようお願い申し上げます。また、ご一読いただいた後も不明な点が生じた場合に備えて、大切に保管されますよう重ねてお願い申し上げます。

ご注意

本製品および取扱説明書の著作権はすべてヤマハ株式会社が所有します。

巻末に本製品のソフトウェアのご使用条件が記載されています。本製品のソフトウェアをインストールする前に、必ずこのご使用条件をお読みください。封をされた CD-ROM のパックを開けるか、ユーザー登録カードを送り返すと、本製品のソフトウェアのご使用条件に同意したことになります。

本製品および取扱説明書の一部または全部を無断で複製、改変することはできません。

本製品および取扱説明書を運用した結果およびその影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。

このソフトウェアの CD-ROM は、オーディオ用ではありません。一般のオーディオ用 CD プレーヤーでは絶対に使用しないでください。

市販の音楽 / サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。

ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。

この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様や画面と異なる場合がありますので、ご了承ください。アプリケーションのバージョンアップなどに伴うシステムソフトウェアおよび一部の機能や仕様の変更については、別紙または別冊で対応させていただきます。

この取扱説明書に掲載されている会社名、製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

* 「MIDI」は社団法人音楽電子事業協会 (AMEI) の登録商標です。

* 「ソフトシンセサイザー」はヤマハ株式会社の商標です。

目次

UW500 の特長.....	6
USB に関するご注意.....	7
音楽著作権に関するご注意.....	8
パッケージの内容.....	9
付属ソフトについて.....	9
動作環境.....	11
各部の名称と機能.....	12
接続について.....	16
ドライバのインストール.....	22
デモソングを聴いてみよう.....	32
ハードディスクレコーディングにチャレンジ.....	34
サンプルフレーズを使って曲作りにチャレンジ.....	40
ドライバの設定変更 (MIDI パッチ画面).....	44
仕様.....	50
故障かな?と思ったら (Q&A).....	51
ユーザーサポートのご案内.....	54
保証とアフターサービス.....	57

UW500 の特長

オーディオと MIDI の同時転送

オーディオデータと MIDI データを同時に使用することができます。

オーディオ入出力は、アナログ（マイク入力、ライン入出力）とデジタル（オプティカル入出力）の両方に対応しています。MIDI 入出力は、MIDI IN/OUT 端子と TO TG 端子（コンピュータのシリアルポートに相当）により、マルチポート（MIDI 出力 6 ポート、MIDI 入力 2 ポート）のパワフルな音楽制作環境をサポートします。

クリアなサウンドを実現

コンピュータの音声入力端子を使用してオーディオ録音すると、オーディオデータをデジタルに変換する際にコンピュータのノイズを拾って音質が劣化してしまいます。UW500 ではアナログ入力も UW500 本体でデジタルに変換するので、クリアなサウンドでのハードディスクレコーディングが可能です。

付属ソフトウェアが音楽制作をサポート

付属のソフトウェア XGworks や TWE を組み合わせて、手軽にハードディスクレコーディングを楽しむことができます。また MIDI 音源がない場合も、ソフトシンセサイザー S-YXG50 を使って、オーディオデータと MIDI データの同時演奏が可能です。

ケーブルをつなぐだけの簡単接続

USB で接続するので、コンピュータの電源を入れたまま、ケーブルの抜き差しができます。また、ドライバをインストールしたらすぐに使えます。

USB による高速データ転送

USB で接続するので、オーディオと MIDI の同時演奏でも優れた応答性が得られます。

USB

USB とは、Universal Serial Bus（ユニバーサル シリアル バス）の略で、コンピュータと周辺機器を接続するためのシリアルインターフェースです。

最高 12Mbps の高速なデータ転送が可能です。また、コンピュータの電源を入れたまま周辺機器との接続ができます。

USB に関するご注意

以下の状態で UW500 の電源オン / オフ、または USB ケーブルの抜き差しをすると、コンピュータがハングアップしたり、UW500 の機能が停止したりする恐れがあります。

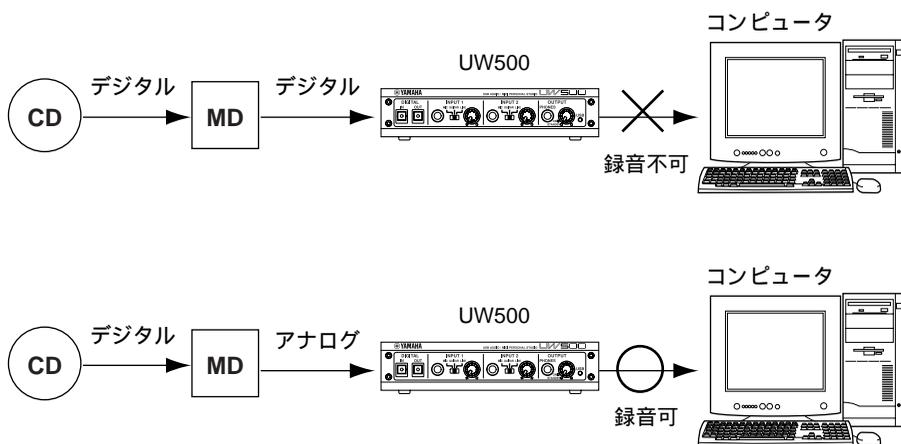
- デバイス認識中またはドライバロード中
- OS 起動途中または終了途中
- サスペンド (スリープ)、レジューム中
- オーディオ / MIDI アプリケーションが起動している状態

また、以下の行為をすると、同様にコンピュータがハングアップしたり、UW500 の機能が停止したりする恐れがあります。

- 頻繁な電源のオン / オフやケーブルの抜き差し
- オーディオ / MIDI データ転送中のサスペンド (スリープ) モードへの移行、レジューム
- UW500 が電源オンの状態でのケーブルの抜き差し
- 大量にデータが流れている状態での UW500 の電源オン / オフ、コンピュータの起動、またはドライバのインストール

音楽著作権に関するご注意

音楽ソフトの著作権を保護するため、UW500 は SCMS(シリアルコピーマネージメントシステム) に対応しています。CD などの市販ソフトからデジタルコピーした MD などのデータには、デジタル録音の世代情報が含まれています。その信号を DIGITAL IN 端子にデジタル入力した場合、コンピュータでは録音できません。コンピュータに録音したい場合は、アナログ入力 (INPUT 1 ~ 3 端子) をお使いください。



本製品を利用することにより録音できる著作権曲 / サウンドデータについては、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、商業的な目的で使用すること、著作権者の許可無く複製、転送または配信したり、不特定多数にむけて再生および演奏することを禁じられています。私的使用以外の目的でご使用の場合は、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。本製品を使用して作成・複製・編集される著作物またはその複製物およびその利用に関する責任は当社では一切負いかねますのでご了承ください。

パッケージの内容

UW500 のパッケージの中には、次のものが入っています。箱を開けたらまず入っているものを確認してください。

- UW500 本体
- 電源アダプター (PA-3B)
- CD-ROM
- USB ケーブル (約 2m)
- 取扱説明書 (本書)
- ユーザー登録カード / 愛用者カード
- 保証書

付属ソフトについて

同梱の CD-ROM には以下のソフトウェアが入っています。

USB-MIDI ドライバ (YAMAHA USB-MIDI Driver)

UW500 の MIDI 機能を動作させるために必要なドライバです。

インストール方法について詳しくは、P.22 をご参照ください。

XGworks lite V3.0A

本格的な音楽制作をお楽しみいただける、Windows 98 対応のシーケンスソフトです。MIDI による演奏データの作成だけでなく、オーディオデータも扱えるので、高度な音楽制作をお楽しみいただけます。

「XGworks_」フォルダの中の「Setup.exe」をダブルクリックするとインストーラが起動します。ここから先は画面の指示にしたがってインストールしてください。使用方法について詳しくは、インストール後、[スタート]メニュー [プログラム]

[YAMAHA XGworks lite Ver.3.0]にある[XGworks取扱説明書](PDF形式)をご参照ください。ただし、付属のヘルプファイルおよびPDFファイルは、XGworks V3.0 に関して記述しており、XGworks lite V3.0A では、以下の機能がご使用になれません。

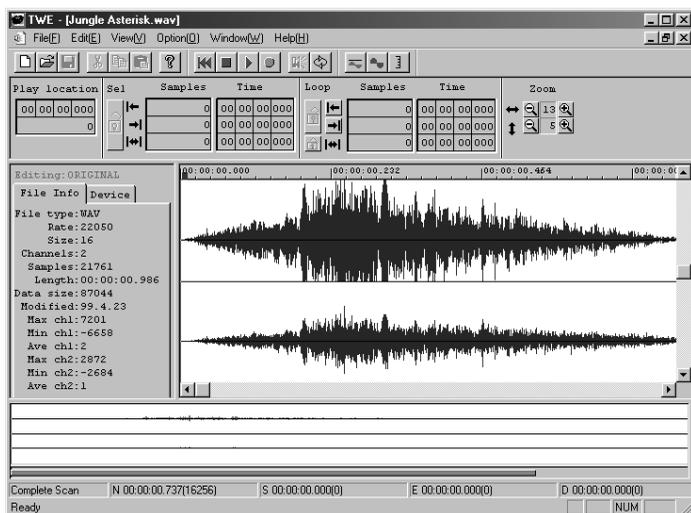
- ・スタッフウィンドウおよび楽譜印刷
- ・ドラムウィンドウ
- ・コントロールセクション
- ・ボイス トゥ スコア R
- ・オートアレンジャー
- ・ギターアレンジャー
- ・オートプレイ
- ・インポーター
- ・SW1000XG Mixer
- ・ボイス トゥ スコア
- ・XF インフォメーションエディター

パッケージの内容

Wave Editor TWE (ウェーブエディター TWE)

ウェーブファイルを録音、編集するためのソフトウェアです。XGworks で録音したウェーブファイルを読み込んで簡単な編集をする場合などにお使いください。

XGworks をインストールすると、いっしょにインストールされます。また、XGworks の [ジョブ] メニューから [Wave Editor TWE] を選択すると起動します。使用方法について詳しくは、インストール後、[スタート] メニュー [プログラム] [YAMAHA XGworks lite Ver.3.0]にある [Wave Editor TWE 取扱説明書] (PDF 形式) をご参照ください。



ソフトシンセサイザー (S-YXG50)

コンピュータの CPU パワーを使って発音する、ソフトウェアタイプの XG 音源です。ソフトシンセサイザーをインストールすることによって、外部 XG 音源を接続しなくても、高音質な MIDI データの演奏を楽しむことができます。

「Syxg50_」フォルダの中の「Setup.exe」をダブルクリックするとインストーラが起動します。ここから先は画面の指示にしたがってインストールしてください。

使用方法について詳細は、インストール後、[スタート] メニュー [プログラム] [YAMAHA Soft Synthesizer S-YXG50]にある [S-YXG50 ヘルプ] をご参照ください。

Acrobat Reader

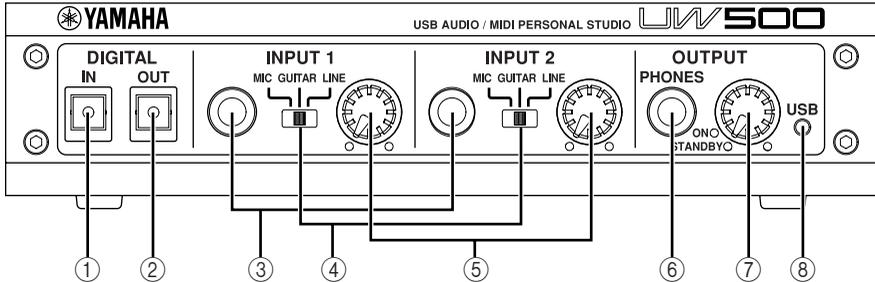
PDF 形式の取扱説明書を画面上で見るためのソフトウェアです。「Acroread」フォルダの中の「Ar40jpn.exe」をダブルクリックするとインストーラが起動します。ここから先は画面の指示にしたがってインストールしてください。

動作環境

対応 OS	Windows98/Windows 98 Second Edition
対応コンピュータ	NEC PC98-NX シリーズ /IBM-AT ならびに互換機 (USB 端子装備) (NOTE) NEC PC9821 シリーズには対応していません。
CPU	Pentium/166MHz 以上 (MMX Pentium/200MHz 以上推奨)
メモリ	32MB 以上 (64MB 以上推奨)
ハードディスク	2MB 以上の空き容量 (NOTE) XGworks lite V3.0を使用するためには、30MB 以上の空き容量が必要です。ウェーブファイルを使用する場合は、更に十分な空き容量が必要です。

各部の名称と機能

フロントパネル



① DIGITAL IN(デジタルイン) 端子
MD や CD プレーヤーなどのデジタル信号を入力する端子です。接続には光デジタルケーブル(角型プラグ)を使用します。また、リアパネルの INPUT SELET スイッチを「DIGITAL」に設定します。

② DIGITAL OUT(デジタルアウト) 端子
コンピュータからのデジタル信号をそのまま MD などのデジタルレコーダーに録音するための端子です。接続には光デジタルケーブル(角型プラグ)を使用します。

(NOTE) 入力端子(INPUT 1 ~ 3 端子、AUX IN 端子、DIGITAL IN 端子) への信号を直接 DIGITAL OUT 端子に出力することはできません。

③ INPUT(インプット) 1/2 端子
マイクをはじめ、ギター、ベース、電子楽器、CD プレーヤーなどの音声信号を入力する端子です。接続には、モノラル標準プラグを使用します。

(NOTE) INPUT 1 ~ 3 端子を使用する場合は、リアパネルの INPUT SELECT スイッチを「STEREO」または「MONO」に設定します。

④ INPUT(インプット)1/2ゲイン切り替えスイッチ

INPUT 1/2 端子に入力する信号の種類を設定します。

ステレオでライン入力する場合は、ゲイン切り替えスイッチを「LINE」に設定し、INPUT 1 端子に L 信号、INPUT 2 端子に R 信号を入力します。また、リアパネルの INPUT SELECT スイッチを「STEREO」に設定します。

⑤ INPUT(インプット)1/2ボリュームつまみ
INPUT 1/2 端子から入力された音声信号の音量を調節します。

⑥ PHONES(ヘッドフォン) 端子
標準プラグのヘッドフォンを接続する端子です。ヘッドフォンの音量は、OUTPUT つまみで調節します。

⑦ OUTPUT(アウトプット)つまみ

電源のオン/スタンバイ(オフ)を切り替えます。つまみを回してカチッと音がするごとに電源のオン/スタンバイが切り替わります。

また電源がオンの場合、UW500全体の音量を調節します。ただし、DIGITAL OUT 端子からの出力音およびリアパネルの AUX IN 端子への入力音は調節できません。



スタンバイ(オフ)の状態でも微電流が流れています。UW500 を長時間使用しないときは必ず電源アダプターをコンセントから抜いてください。

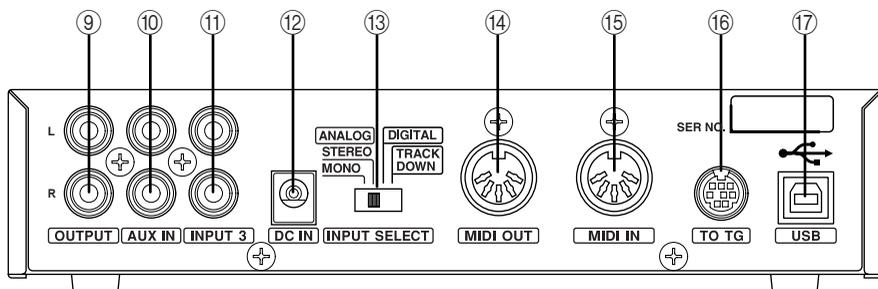
⑧ USB(ユーエスピー)LED

UW500 に電源が供給されると赤色に点灯し、コンピュータと正常に接続されると緑色に点灯します。また、MIDI 信号を送受信すると緑色に点滅します。INPUT SELECT スイッチを「TRACK DOWN」に設定している場合は、オレンジ色に点灯します(P.15)。

DIGITAL IN 端子に入力された信号のサンプリング周波数が適切でない場合は、オレンジ色に点滅し、録音できません。この場合、コンピュータのアプリケーション上で、入力する信号に合わせて適切な周波数に設定します。著作権保護された信号を DIGITAL IN 端子から録音しようとすると、赤と緑が交互に点滅し、録音できません(P.8)。

各部の名称と機能

リアパネル



⑨ OUTPUT(アウトプット) 端子

アンプ内蔵スピーカーなどの再生装置やテープレコーダーなどの録音装置を接続するための端子です。接続には、RCA ピン L/R 端子を使用します。

⑩ AUX IN(オークスイン) 端子

CD プレーヤーなどのオーディオ機器を接続するための端子です。入力された信号は、コンピュータを bypass せずにそのまま OUTPUT 端子および PHONES 端子から出力されます (DIGITAL OUT には出力されません)。接続には、RCA ピン L/R 端子を使用します。

(NOTE) この端子に入力された音声信号をコンピュータに録音することはできません。録音する場合は、INPUT 3 端子を使用します。

⑪ INPUT(インプット) 3 端子

CD プレーヤーなどのオーディオ機器を接続するための端子です。入力された音声信号はコンピュータに録音することができます。接続には、RCA ピン L/R 端子を使用します。

(NOTE) INPUT SELECT スイッチが「MONO」に設定されている場合も、この端子へはステレオで入力されます。

⑫ DC IN(ディーシーイン) 端子

付属の電源アダプター PA-3B を接続する端子です。

! 電源アダプターを接続する場合は必ず本体の電源がオフ (スタンバイ) になっていることを確認し、電源アダプターを DC IN 端子につないでから電源コンセントに接続してください。

⑬ INPUT SELECT(インプットセレクト) スイッチ

使用する入力端子 (INPUT 1 ~ 3 端子または DIGITAL IN 端子) を切り替え、また入力する信号の種類を設定します。

INPUT 1/2 端子に電子楽器やオーディオ機器などのステレオ信号 (INPUT 1 に L 信号、INPUT 2 に R 信号) を入力する場合は、「STEREO」に設定します。INPUT 1 端子と INPUT 2 端子にマイクやギターなどのモノラル信号を入力する場合は、「MONO」に設定します。DIGITAL IN 端子にデジタル信号を入力する場合は、「DIGITAL」に設定します。

(NOTE) DIGITAL IN と INPUT 1 ~ 3 端子を同時には使用できません。

また、「TRACK DOWN」に設定すると、USB 端子から出力されたオーディオ信号はそのまま USB 端子に戻されます。複数のウェーブファイルやソフトシンセサイザーのオーディオ信号を一つのウェーブファイルにトラックダウンする場合に使用します(P.39)。この場合、USB LED はオレンジ色に点灯し、INPUT1 ~ 3 端子と DIGITAL IN 端子は使用できません。

! お使いのアプリケーションによっては、入力されたオーディオ信号をそのまま出力する場合があります。その場合、「TRACK DOWN」に設定するとオーディオ信号が発振し、耳を傷めたり再生機器を損傷したりする場合がありますので、「TRACK DOWN」は選択しないでください。

- ⑭ MIDI OUT(ミディアウト) 端子
MIDI 機器へ MIDI 信号を送信する端子です。MIDI ケーブルを使用して、MIDI 機器の MIDI IN 端子と接続します。

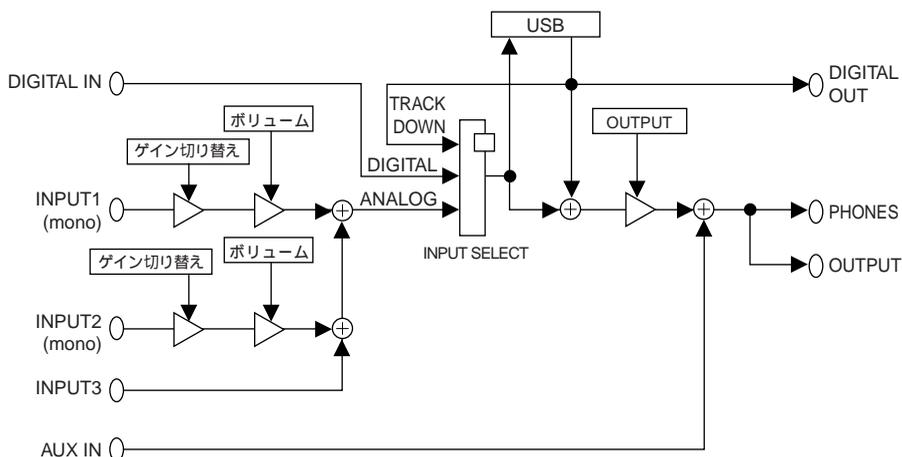
- ⑮ MIDI IN(ミディイン) 端子
MIDI 機器からの MIDI 信号を受信する端子です。MIDI ケーブルを使用して、MIDI 機器の MIDI OUT 端子と接続します。

- ⑯ TO TG(トゥーティージー) 端子
MIDI 機器の TO HOST 端子と接続する端子です。接続には別売のシリアルケーブル YAMAHA CCJ-MAC(市販品の場合は、両端が MINI DIN 8 ピンのクロスケーブル) をご使用ください。

(NOTE) このとき、MIDI機器のHOST SELECT スイッチは、お使いのコンピュータに関わらず、「PC-1」または「Mac」に設定します。

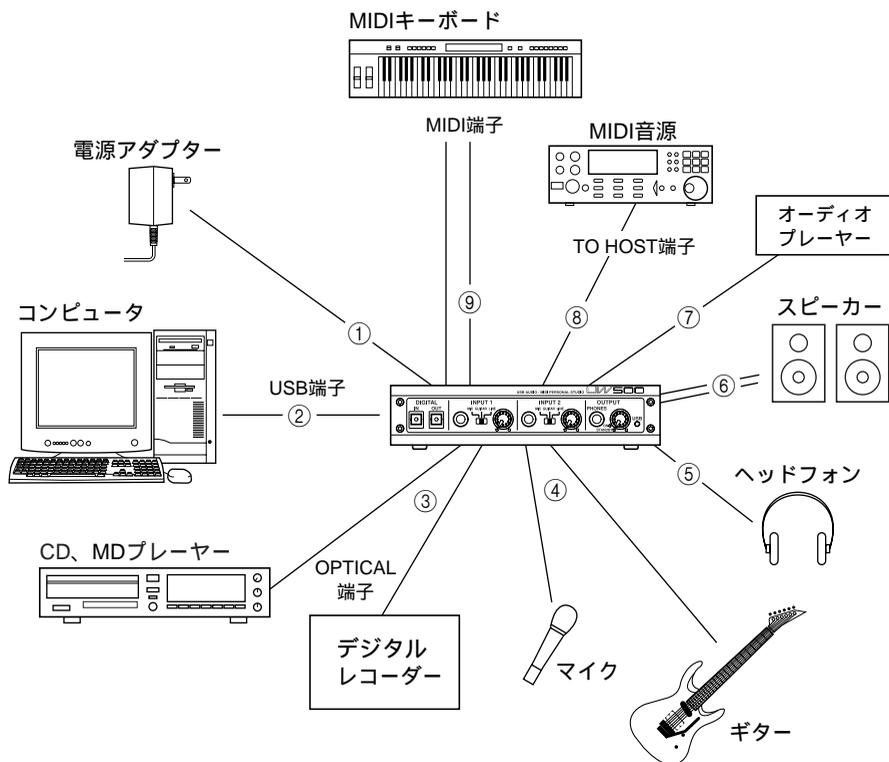
- ⑰ USB(ユーエスピー) 端子
USB ケーブルでコンピュータや USB ハブと接続する端子です。

オーディオ信号の流れ

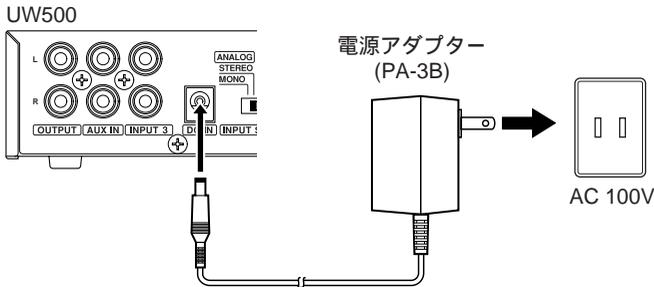


接続について

ここでは、UW500 を使って、スピーカーやマイクなどのオーディオ機器や、音源やキーボードなどの MIDI 機器とコンピュータを接続する方法を説明します。



(1) 電源アダプターの接続



1. UW500 の OUTPUT つまみをオフ (スタンバイ) にします。
2. 同梱の電源アダプター (PA-3B) のプラグを本体リアパネルの DC IN 端子に接続します。
3. 電源アダプターをコンセント (AC 100V) に接続します。

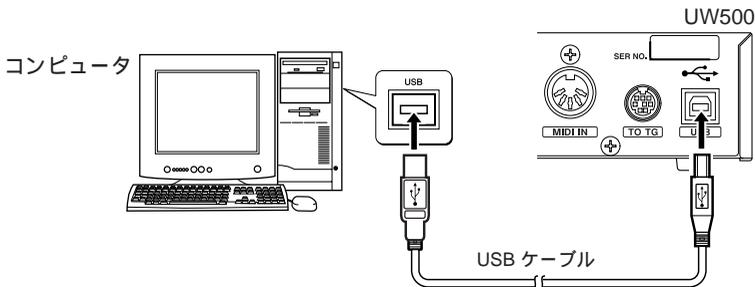
! 電源アダプターは必ず付属の PA-3B をお使いください。電流、電圧や極性の違う電源アダプターを使用すると故障の原因となります。また、長時間ご使用にならない場合は必ずコンセントから外してください。

(NOTE) コンピュータと UW500 が正しく接続されている状態で、電源を入れてください。

(2) コンピュータとの接続

コンピュータの USB 端子と UW500 の USB 端子を USB ケーブルで接続します。このとき、UW500 の電源は必ず切っておいてください。

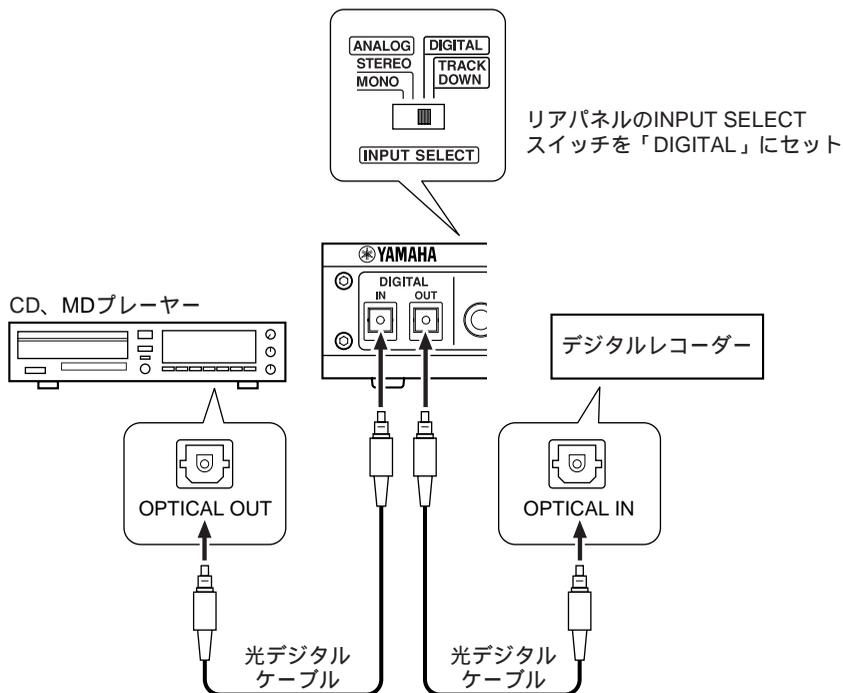
(NOTE) ただし、コンピュータの電源を切っておく必要はありません。



(3) デジタルオーディオ機器との接続

デジタルオーディオ機器（録音用）を DIGITAL OUT 端子に接続します。また、デジタルオーディオ機器（再生用）を DIGITAL IN 端子に接続します。接続には光デジタルケーブル（角型プラグ）を使用します。

NOTE DIGITAL IN 端子を使用する場合は、リアパネルの INPUT SELECT スイッチを「DIGITAL」に設定します。



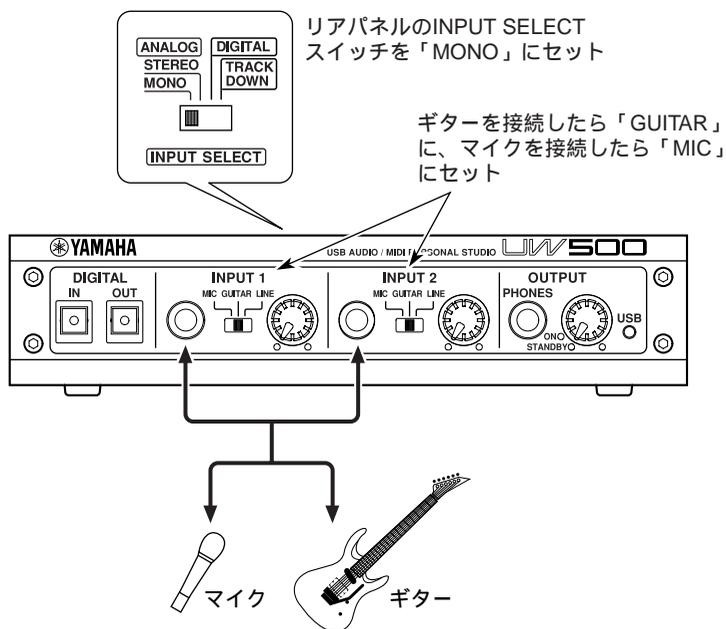
(4) ギターやマイクとの接続

ギター(またはギター用エフェクター)やマイクを INPUT 1 または 2 端子に接続します。また、INPUT 1 または 2 ゲイン切り替えスイッチを「GUITAR」または「MIC」に、リアパネルの INPUT SELECT スイッチを「MONO」に設定します。

❗ ゲイン切り替えスイッチの設定を誤ると、耳を傷めたりオーディオ機器が破損したりします。十分ご注意ください。

❗ INPUT 1/2 端子にケーブルを接続するときは、必ず INPUT 1/2 つまみを最小に絞ってから行なってください。

(NOTE) ギターの音などのデジタルオーディオ録音について詳しくは、P.34 をご参照ください。



(5) ヘッドフォンとの接続

ヘッドフォンのステレオ標準プラグを UW500 の PHONES 端子に接続します。ヘッドフォンの音量は、OUTPUT つまみで調節します。

接続について

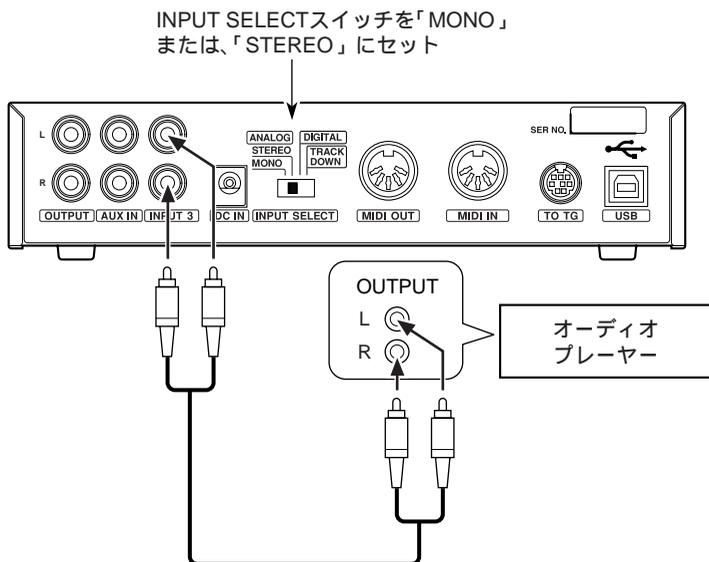
(6) スピーカーとの接続

アンプ内蔵スピーカーを UW500 の OUTPUT 端子 (RCA ピン L/R 端子) に接続します。接続する機器にあったケーブルをご用意ください。

- ❗ スピーカーの電源を切った上で接続してください。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず UW500 とスピーカーのボリュームを最小にしてください。

(7) オーディオ機器との接続

CD プレーヤーなどのオーディオ機器を INPUT 3 端子 (RCA ピン L/R 端子) に接続します。リアパネルの INPUT SELECT スイッチは「MONO」または「STEREO」に設定します。また、コンピュータを通さずに直接 OUTPUT 端子や PHONES 端子から出力したい場合は、AUX IN 端子に接続します。接続する機器にあったケーブルをご用意ください。

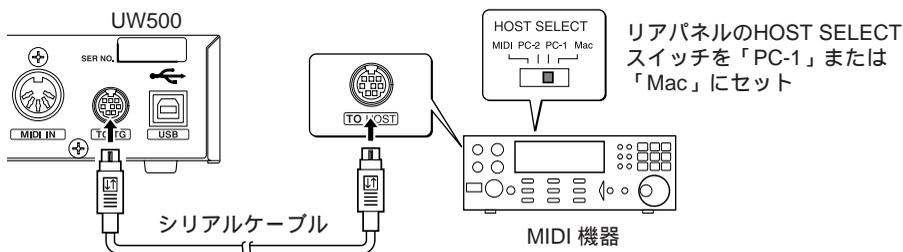


(8) TO TG 端子と MIDI 機器との接続

MIDI 機器の TO HOST 端子と UW500 の TO TG 端子を別売のシリアルケーブル YAMAHA CCJ-MAC(市販品の場合は、両端が MINI DIN 8 ピンのクロスケーブル)で接続します。このとき、MIDI 機器の HOST SELECT スイッチは、お使いのコンピュータにかかわらず「PC-1」または「Mac」に設定します。

TO TG 端子で接続すると、MIDI OUT が 5 ポート、MIDI IN が 1 ポートのマルチポートとして音源をコントロールすることができます。

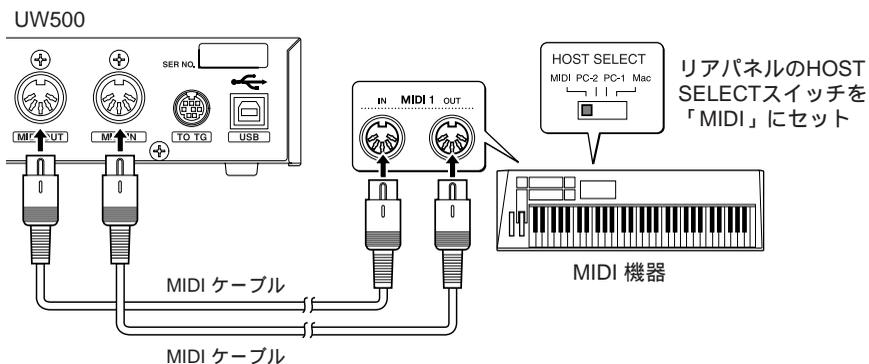
(NOTE) UW500 の入出力端子とポート番号の関係については、P.44 をご覧ください。



(9) MIDI 端子と MIDI 機器との接続

MIDI 機器の MIDI IN 端子と UW500 の MIDI OUT 端子を別売の MIDI ケーブルで接続します。同様に MIDI 機器の MIDI OUT 端子と UW500 の MIDI IN 端子を接続します。このとき、MIDI 機器の HOST SELECT スイッチは「MIDI」に設定します。

(NOTE) UW500 の入出力端子とポート番号の関係については、P.44 をご覧ください。

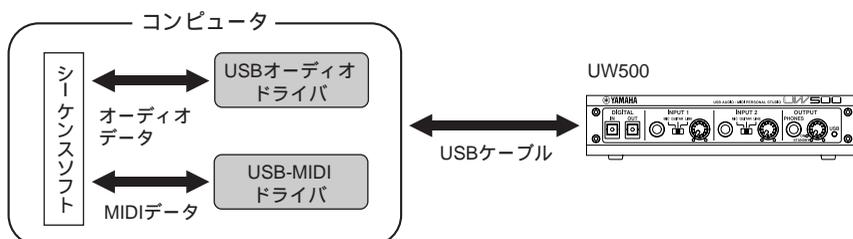


ドライバのインストール

UW500 を実際に使用するためには、コンピュータに以下のドライバを正しくインストールする必要があります。

USB-MIDI ドライバは、シーケンスソフトから USB ケーブルを通じて、UW500 に MIDI 信号を送信したり、逆に UW500 からシーケンスソフトに MIDI 信号を送信するためのソフトウェアです。

USB オーディオドライバは、同様に USB ケーブルを通じてオーディオ信号を送受信するためのソフトウェアです。



インストール手順

以下の手順で 3 つのドライバ (USB 互換デバイス、USB-MIDI ドライバ、USB オーディオデバイス) をインストールします。

NOTE 他の USB 機器をお使いで一部のドライバが既にインストールされている場合、そのドライバのインストールの手順が飛ばされることがあります。その場合も問題なくご使用いただけます。

NOTE お使いの CD-ROM ドライブのドライブ名 (D、E、Q: など) をあらかじめご確認ください。ドライブ名は「マイコンピュータ」の中の CD-ROM アイコンの下に表示されています。

1. コンピュータを起動します。
2. UW500 の電源がスタンバイ (オフ) の状態になっていることを確認して、付属の USB ケーブルで、コンピュータもしくは USB ハブの USB 端子と、UW500 の USB 端子を接続します。
3. UW500 の電源をオンにします。「新しいハードウェアの追加ウィザード」が自動的に表示されます。



ドライバのインストール

4. [次へ] をクリックします。検索方法を選択する画面が表示されます。



5. 「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する (推奨)」の左側にあるラジオボタンにチェックを入れて、[次へ] をクリックします。ドライバのインストール元を選択する画面が表示されます。



6. CD-ROM ドライブに付属の CD-ROM を挿入します。CD-ROM が検出されるのを確認後、「検索場所の指定」にチェックを入れます。また、[参照] ボタンをクリックして、CD-ROM ドライブの「USBdrv_」ディレクトリ (D:¥USBdrv_¥ など) を指定します。[次へ] をクリックします。

(NOTE) お使いのコンピュータによって、ドライブ名 (D:、E:、Q: など) は異なります。

7. CD-ROM 中のドライバを検出し、インストールの準備が終わると、次の画面が表示されます。「USB 互換デバイス」が表示されていることを確認後、[次へ] をクリックします。

インストールが始まります。

(NOTE) インストールの途中で Windows98 の CD-ROM を要求してくる場合があります。CD-ROM ドライブに Windows98 の CD-ROM を挿入して、CD-ROM ドライブの適切なディレクトリ (D:¥Win98 など) を指定してインストールを続行してください。ただし、お使いのコンピュータによって、ドライブ名、ディレクトリ名は異なります。



8. インストールが終わると、次の画面が表示されます。[完了] をクリックします。

(NOTE) お使いのコンピュータによっては、インストール終了後この画面が表示されるまでに 10 秒近くかかる場合があります。



ドライバのインストール

9. しばらく待つと、もう一度「新しいハードウェア追加ウィザード」が自動的に表示されます。
上記の手順 3 ~ 8 と同様にして、「YAMAHA USB MIDI Driver」をインストールします。

(NOTE) 初めの画面では、以下のように「YAMAHA UW500」または「不明なデバイス」と表示されます。

(NOTE) ドライバの検出中に Windows98 の CD-ROM を要求してくる場合がありますが、読み込み先として付属の CD-ROM の “USBdrv_” フォルダ (D:¥USBdrv_ など) を指定してインストールを続行してください。



10. しばらく待つと、もう一度「新しいハードウェア追加ウィザード」が自動的に表示されます。
上記の手順 3 ~ 8 と同様にして、「USB オーディオデバイス」をインストールします。



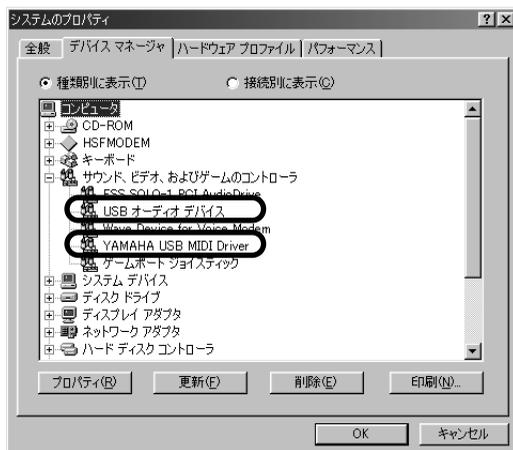
11. コンピュータを再起動します。

(NOTE) インストール後 10 秒ほど待って、ハードディスクへのアクセスがなく、マウスポインタが砂時計マークになっていないことを確認してから、再起動してください。

これで、ドライバのインストールは完了しました。

インストールの確認

以下の手順で、ドライバが正しくインストールされているかどうかを確認することができます。



1. 「マイコンピュータ」の中の「コントロールパネル」をダブルクリックして開きます。「システム」をダブルクリックすると「システムのプロパティ」ダイアログが開きます。
2. 「デバイスマネージャ」のタブをクリックすると、「USB オーディオ デバイス」と「YAMAHA USB MIDI Driver」の表示を確認することができます。

ドライバのインストール

オーディオ /MIDI 信号出力先の設定

ここでは、Windows98 で UW500 を使うための基本的な設定を行ないます。お使いのシーケンスソフトでの設定については、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

オーディオ 再生 / 録音の設定



1. 「コントロールパネル」の中の「マルチメディア」をダブルクリックすると、「マルチメディアのプロパティ」ダイアログが開きます。
2. 「オーディオ」のタブをクリックします。
3. 「再生」の「優先するデバイス」のボックスをクリックして、「USB オーディオ デバイス」を選びます。
(NOTE) お使いのコンピュータによっては、「USB オーディオ デバイス (1)」と表示されます。また USB オーディオ対応機器を 2 つ以上接続している場合は、(1) 以外の数字も表示されます。
4. 「録音」の「優先するデバイス」のボックスをクリックして、「USB オーディオ デバイス」を選びます。
5. 「優先するデバイスのみ使う」のチェックボックスにチェックを入れて、[OK] をクリックします。

MIDI 出力の設定



1. 「コントロールパネル」の中の「マルチメディア」をダブルクリックすると、「マルチメディアのプロパティ」ダイアログが開きます。
2. 「MIDI」のタブをクリックすると、「YAMAHA USB OUT(xx-yy)」の表示を確認することができます。

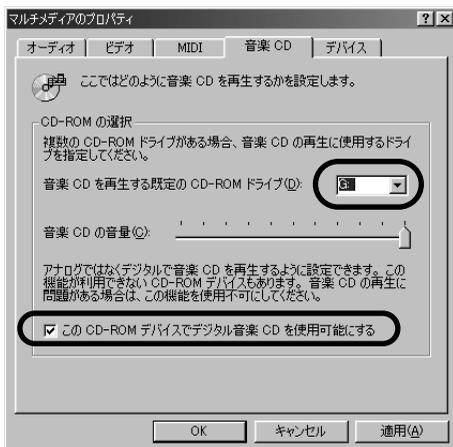
(NOTE) xxはデバイス番号(P.45)、yyはポート番号(P.44)を表しています。ヤマハのUSB対応機器を1台だけ接続している場合、デバイス番号は0となります。

3. 「単一の機器」が選択されている状態で、接続している音源のポート番号に合わせてドライバを選択し、[OK]をクリックします。

ドライバのインストール

音楽 CD の設定

音楽 CD をコンピュータの CD-ROM ドライブで再生して UW500 からデジタルのまま出力するためには、以下の設定を行ないます。



1. 「コントロールパネル」の中の「マルチメディア」をダブルクリックすると、「マルチメディアのプロパティ」ダイアログが開きます。
2. 「音楽 CD」タブをクリックします。
3. 使用するCD-ROMドライブ(D: など)が正しく選択されていることを確認します。
4. 「この CD-ROM デバイスでデジタル音楽 CD を使用可能にする」のチェックボックスにチェックを入れて、[OK] をクリックします。

ボリュームコントロールの設定

1. 「スタート」メニュー [プログラム] [アクセサリ] [エンターテインメント]にある [ボリュームコントロール] を選択すると、「ボリュームコントロール」のダイアログが開きます。
2. スライダーを動かして音量を調節します。

デモソングを聴いてみよう

UW500 と付属のシーケンスソフト XGworks およびソフトシンセサイザー S-YXG50 を使って、デモソングを聴いてみましょう。

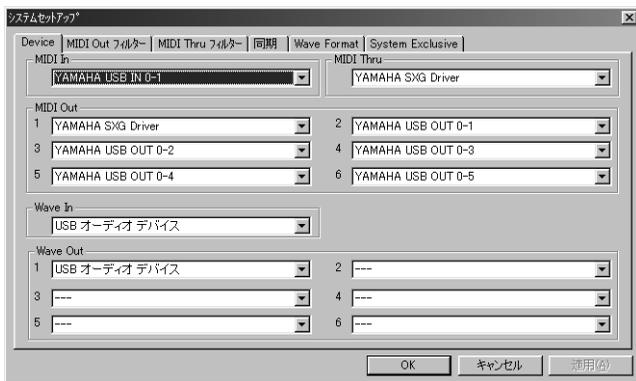
「Unreal Wave」

イントロダクション～強烈なスラップベース・ソロ～ 2本のエレキギターによる白熱のバトル～クールなヒップホップ・ラップ～クロージング ... と劇的に、そしてトリッキーに様々な場面が転回します。躍動感あふれるウエーブ・データとハイクオリティな MIDI データが織り成す絶妙な一体感をご堪能ください。

Produced by 氏家克典 (株式会社アイデックス)

E.ギター: 手島 Tessy いさむ / E.ベース: 入江 Taro 直之 / ボーカル, 作詞: ANTHONY F. SHOEMO

1. ヘッドフォンを PHONES 端子に (P.12)、またはアンプ内蔵スピーカーを OUTPUT 端子に (P.14) 接続します。
 - ❗ 必ず UW500 の電源を切った状態で接続してください。
2. OUTPUT つまみを ON の位置に回して、UW500 の電源を入れます。
 - ❗ OUTPUT つまみは最小の位置 (ON の表示の真上) に絞っておいてください。
3. [スタート] メニュー [プログラム] [YAMAHA XGworks lite Ver.3.0] [XGworks lite] を選択して、XGworks を起動します。
4. [設定] メニューから [システムセットアップ] を選択すると、システムセットアップダイアログの Device のページが表示されます。

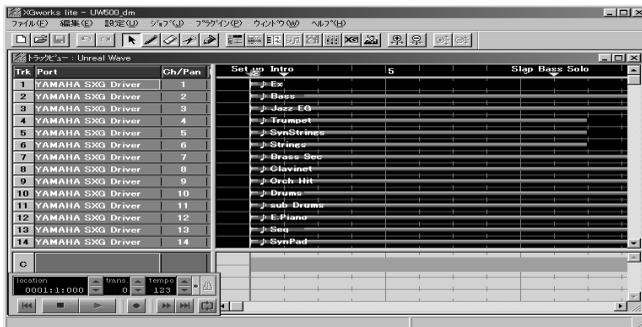


5. 「MIDI OUT 1」のボックスをクリックすると表示されるポップアップメニューから、適切なデバイスを選択します。
ソフトシンセサイザーを使う場合は「YAMAHA SXX Driver」を、MIDI IN 端子に接続した外部 MIDI 音源を使う場合は「YAMAHA USB OUT 0-1」を、TO TG 端子に接続した外部 MIDI 音源を使う場合は「YAMAHA USB OUT 0-2」を選択します。

(NOTE) TO TG 端子に接続したマルチポート音源をお使いの場合は、「YAMAHA USB OUT 0-3 ~ 6」を選択して音源を鳴らすこともできます。

デモソングを聴いてみよう

- 「Wave In」および「Wave Out」のボックスには「USB オーディオ デバイス」を選択します。[OK] をクリックすると、ダイアログボックスが閉じます。
- 付属の CD-ROM からデモソングをハードディスクにコピーします。
付属の CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入して、「マイコンピュータ」の中の CD-ROM ドライブのアイコンをダブルクリックして開きます。「Demo」フォルダの中の「UW500_dm.xws」(ソフトシンセサイザーをお使いの場合) または「UW500_mu.xws」(外部 MIDI 音源をお使いの場合) をデスクトップなどにドラッグして、ハードディスクにコピーします。
(NOTE) ソフトシンセサイザーをお使いの場合は、[スタート] メニュー [プログラム] [YAMAHA SoftSynthesizer S-YXG50] [S-YXG50 設定] [詳細設定 1/2] の設定画面で、「最大発音数」を 32 に、「最大 CPU 使用率」を 40% に、「ダイレクタサウンド」をオフに設定してください。
- メニューバーの [ファイル] メニューから [開く] を選択すると、ファイルを開くダイアログが表示されます。ハードディスクにコピーしたデモソングを指定して [開く] をクリックすると、トラックビューウィンドウ上にデモソングが表示されます。



- プレイコントロールのプレイボタンをクリックするとデモソングの再生が始まります。OUTPUT つまみを使って適当な音量に調節してください。ストップボタンをクリックすると、再生は停止します。



ストップボタン プレイボタン

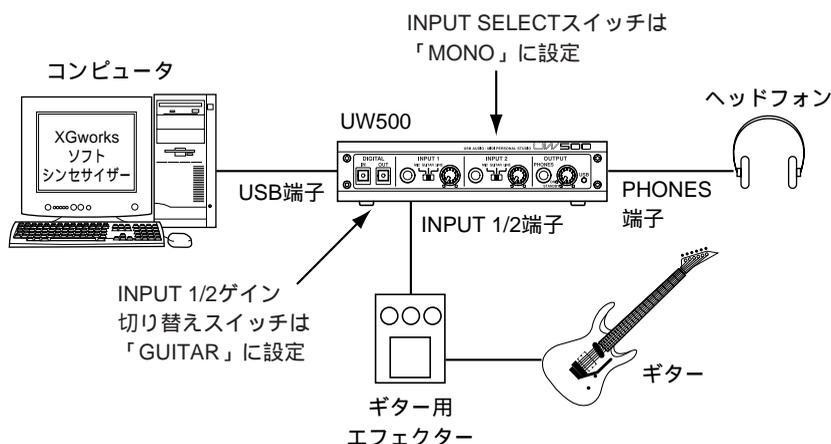
- (NOTE)** このデモソングは、CPU が Seleron466MHz、メモリが 64MB の環境で作成され、再生が確認されています。

ハードディスクレコーディングにチャレンジ

UW500 と付属のシーケンスソフト XGworks およびソフトシンセサイザー S-YXG50 を使って、簡単なハードディスクレコーディングにチャレンジしてみましょう。ここでは、ギターの音を XGworks にデジタルオーディオ録音して、MD などのデジタルレコーダーにデジタル録音するまでの基本的な接続方法と操作手順を説明します。

(NOTE) XGworks の操作について詳しくは、付属の PDF マニュアルをご参照ください。

ギターのデジタルオーディオ録音



1. INPUT 1 または 2 端子にギター (またはギター用エフェクター) を接続します。接続にはギター用のシールド (標準プラグ) を使用します。ヘッドフォンを PHONES 端子に (P.12)、またはアンプ内蔵スピーカーを OUTPUT 端子に (P.14) 接続します。音源として、外部 MIDI 音源を使用する場合は、MIDI 音源を MIDI OUT 端子または TO TG 端子に接続します (P.21)。また、AUX IN 端子と MIDI 音源の OUTPUT 端子を接続します。

❗ 必ず UW500 の電源を切った状態で接続してください。

(NOTE) ギターの弾き語りでもボーカルとギターを別々のウェーブファイルに録音したい場合は、INPUT 1/2 端子にギターとマイクをそれぞれ接続してステレオで録音します。その後、TWE を使って別々のモノラルのウェーブファイルに分割することができます。

ハードディスクレコーディングにチャレンジ

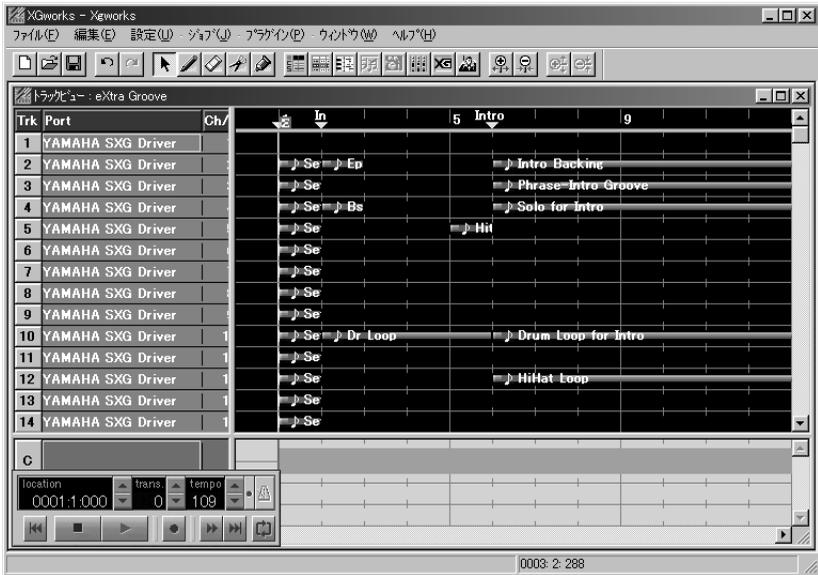
- OUTPUT つまみを ON の位置に回して、UW500 の電源を入れます。

❗ OUTPUT つまみは最小の位置 (ON の表示の真上) に絞っておいてください。

- INPUT 1/2 ゲイン切り替えスイッチを「GUITAR」に設定します。また、リアパネルの INPUT SELECT スイッチを「MONO」に設定します。

(NOTE) ステレオ効果のあるエフェクターを INPUT 1 端子と INPUT 2 端子にステレオ接続している場合は、「STEREO」に設定します。

- XGworks を起動します。[ファイル] メニューから [開く] を選択し、レコーディングするファイルを開きます。



- [設定] メニューから [システムセットアップ] を選択します。[Device] のページで、適切なデバイスを選択します。

(NOTE) 詳しくは、P.32 の手順 5 をご覧ください。

ハードディスクレコーディングにチャレンジ

6. [Wave Format] のページで、ボックスをクリックすると表れるドロップダウンリストから [44.1 kHz, Mono, 16Bit] を選択します。[OK] をクリックして、ダイアログを閉じます。

(NOTE) ステレオ効果のあるエフェクターをステレオ接続している場合は、[44.1 kHz, Stereo, 16Bit] を選択します。

(NOTE) XGworks では、異なるサンプリング周波数のウェーブファイルを同時に再生することはできません。

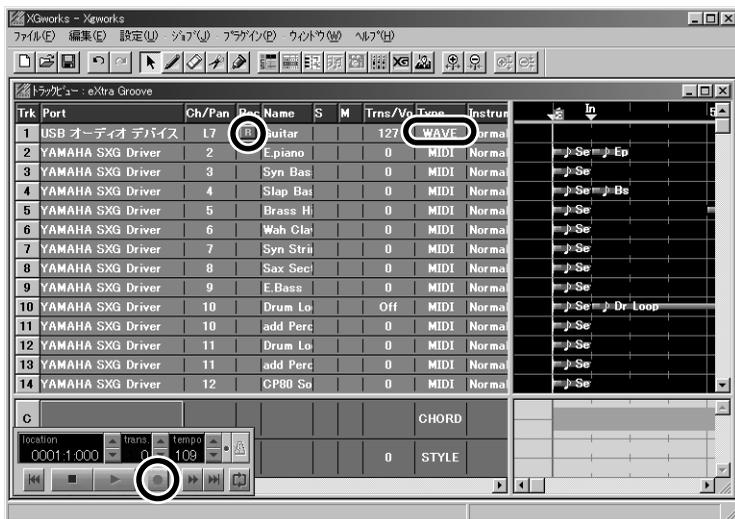


7. [設定] メニューから [レコード / プレイ設定] を選択し、「リアルタイム」の左のラジオボタンにチェックを入れます。[OK] をクリックしてダイアログを閉じます。



ハードディスクレコーディングにチャレンジ

- トラックビューウィンドウ上で、録音するトラックの Type 表示をクリックして「WAVE」を選択します。また、Rec 表示をクリックすると、R マークがつき、そのトラックが録音可能な状態になります。また、プレイコントロールのレコードボタンをクリックすると、赤色表示になり、録音スタンバイの状態になります。



- ギターのボリュームを十分に大きくした状態で、ヘッドフォンで音が歪まないことを確認しながら、INPUT1/2 ボリュームつまみで録音レベルを調節します。また同時に、OUTPUT つまみを操作してヘッドフォンの音量を調節します。

(NOTE) 「ボリュームコントロール」のダイアログ (P.30) で、音量をすべて最大に設定してください。最大に設定しないと、モニターした音と録音した音の音量が異なる場合があります。

- プレイコントロールのプレイボタンをクリックします。プレイボタンが点灯表示となり、録音が始まります。ソフトシンセサイザーの音を聞きながら、ギターを演奏して録音していきます。



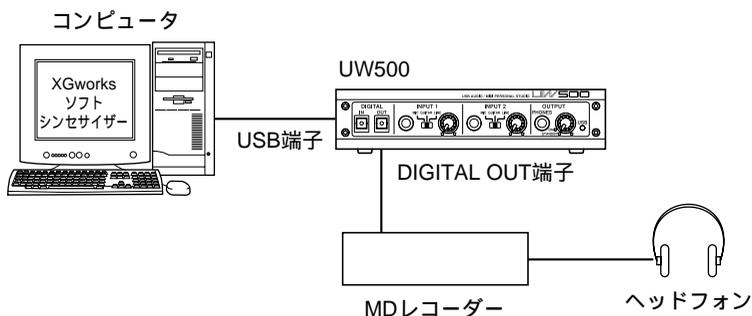
ハードディスクレコーディングにチャレンジ

11. プレイコントロールのストップボタンをクリックすると、録音が終了します。

(NOTE) 録音をもう一度やり直したい場合は、ツールバーのアンドゥボタンをクリックして、今行なった録音を取り消すことができます。



MD ヘジタル録音



1. MD などのデジタルレコーダーを DIGITAL OUT 端子に接続します。

! 必ず UW500 の電源を切った状態で接続してください。

(NOTE) アナログ入力(INPUT1 ~ 3 端子および AUX IN 端子への入力)を DIGITAL OUT 端子に出力することはできません。したがって、外部 MIDI 音源の演奏も同時に録音する場合は、ギターの音と同様に MIDI 音源の音声もあらかじめハードディスクに録音しておく必要があります。

2. OUTPUT つまみを ON の位置に回して、UW500 の電源を入れます。

! OUTPUT つまみは最小の位置 (ON 表示の真上) に絞っておいてください。

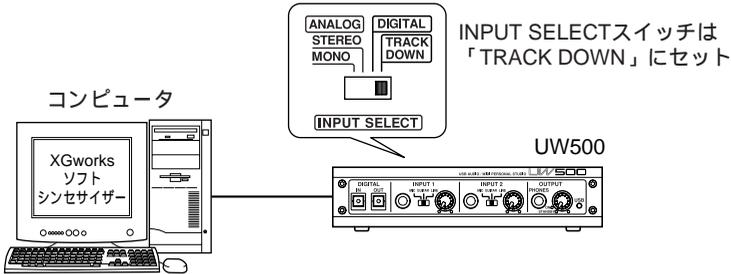
3. MD レコーダーで録音を開始した後、XGworks のプレイコントロールのプレイボタンをクリックしてソングの再生を開始します。

4. 曲が終了したら、MD の録音を停止します。

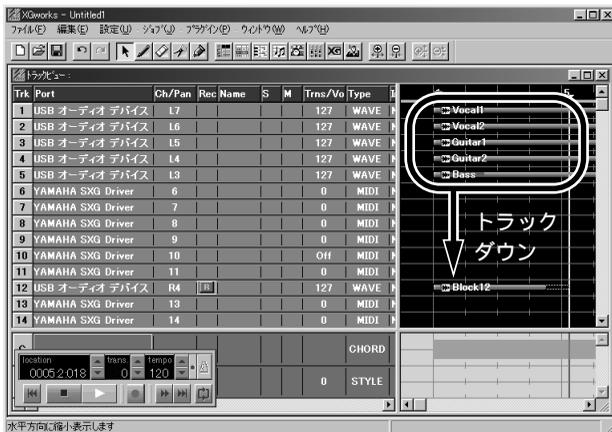
ハードディスクレコーディングにチャレンジ

コンピュータ上でトラックダウン

XGworks と UW500 を使って、複数のウェーブファイルやソフトシンセサイザーの再生音を一つのウェーブファイルにトラックダウンすることができます。また、トラックダウンしたウェーブファイルは、市販の MP3 エンコーダーで MP3 ファイルに変換したり CD-ROM に書き込んだりすることができます。



1. リアパネルの INPUT SELECT スイッチを「TRACK DOWN」に設定します。
2. 録音するトラックの Type 表示をクリックして「WAVE」を選択します。また、Rec 表示をクリックすると、R マークがつき、そのトラックが録音可能な状態になります。また、プレイコントロールのレコードボタンをクリックすると、赤色表示になり、録音スタンバイの状態になります。
3. プレイコントロールのプレイボタンをクリックして、トラックダウンを開始します。



4. 曲が終了したら、ストップボタンをクリックします。
録音したウェーブブロックをダブルクリックすると、ウェーブファイルの情報を
見ることができます。

サンプルフレーズを使って曲作りにチャレンジ

付属のサンプルフレーズ集 (ウェーブデータ) を XGworks 上で編集して、オリジナル曲を作ってみましょう。

(NOTE) XGworks の操作について詳しくは、付属の PDF マニュアルをご参照ください。

(NOTE) このソングファイルとサンプルフレーズ集は P.32 のデモソングから抜粋したものです。

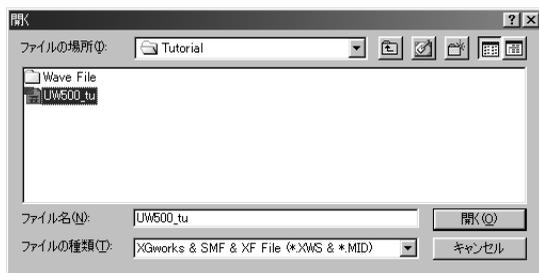
1. 付属の CD-ROM からソングファイルとサンプルフレーズ集をハードディスクにコピーします。

付属の CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入して、「マイコンピュータ」の中の CD-ROM ドライブのアイコンをダブルクリックして開きます。「Demo」フォルダの中の「Tutorial」フォルダをデスクトップなどにドラッグして、ハードディスクにコピーします。

2. XGworks を起動します。

(NOTE) セットアップについて詳しくは、「デモソングを聴いてみよう」(P.32) の手順 1 ~ 6 をご参照ください。

3. メニューバーの [ファイル] メニューから [開く] を選択すると、ファイルを開くダイアログが表示されます。

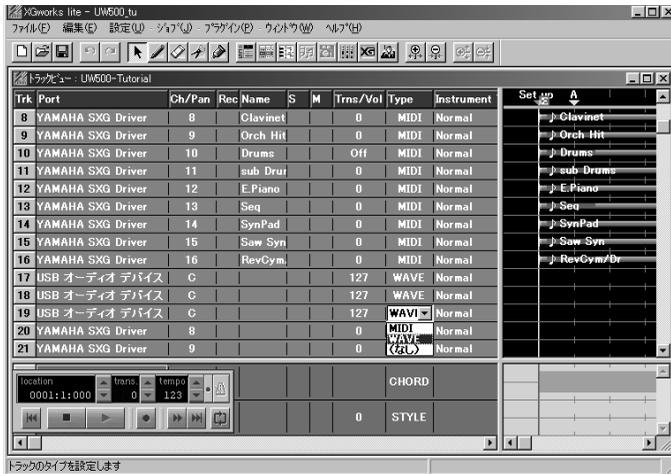


4. 「Tutorial」フォルダの中にあるソングファイル「UW500_tu.xws」を選択して [開く] をクリックすると、トラックビューウィンドウ上にソングが表示されます。

(NOTE) このソングファイルには MIDI データだけが含まれています。

サンプルフレーズを使って曲作りにチャレンジ

- トラックビューウィンドウ上で、ウェーブデータを読み込むトラック (トラック 17 ~ 19) の Type 表示をクリックして「WAVE」を選択します。



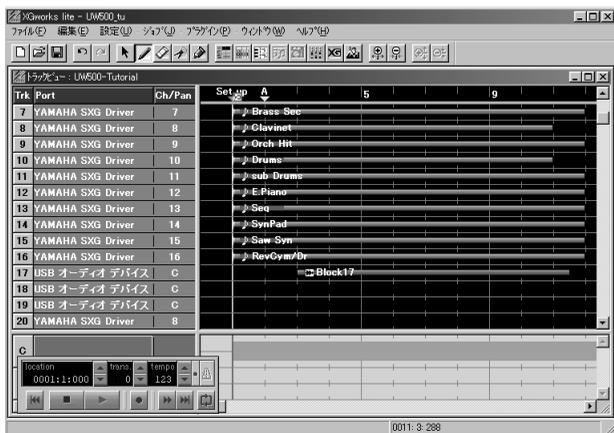
- ツールバーから鉛筆ツールのアイコンを選択します。



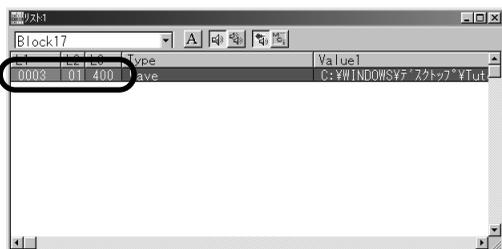
サンプルフレーズを使って曲作りにチャレンジ

7. 以下の手順で、ベースのウェーブデータを挿入します。

トラック 17 の 3 小節目でマウス左ボタンを押したまま右方向にドラッグしてマウスボタンを離すと、ファイルを開くダイアログが開きます。「Wave File」フォルダの中にある「SlapBass.wav」を選択して [開く] をクリックすると、トラックビューウィンドウ上にウェーブブロックが表示されます。



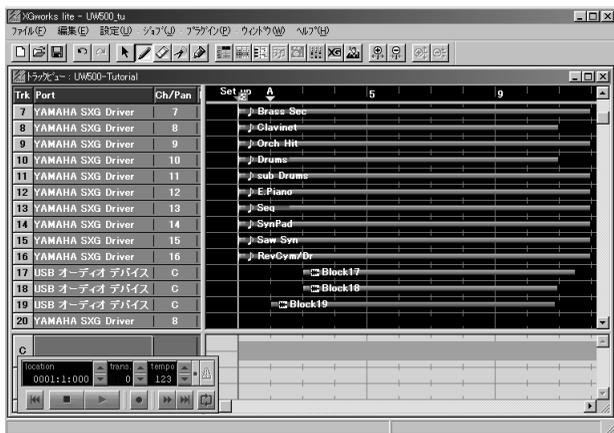
つぎに、ウェーブブロックをダブルクリックして、リストウィンドウを開きます。L1/L2/L3(小節/拍/クロック単位)のボックスをそれぞれクリックして、ウェーブファイルの鳴るタイミングを L1=0003、L2=01、L3=400 に設定します。



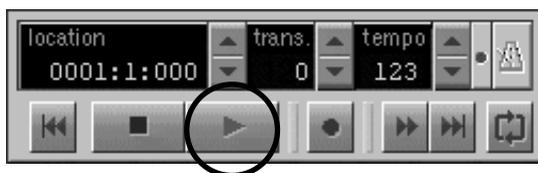
8. 7.と同様の手順で、トラック 18 の 3 小節目にギターウェーブデータ「EGuitar.wav」を挿入します。また、ウェーブブロックをダブルクリックして、ウェーブファイルの鳴るタイミングを L1=0003、L2=01、L3=350 に設定します。

サンプルフレーズを使って曲作りにチャレンジ

9. 7.と同様の手順で、トラック 19の2小節目にラップのウェーブデータ「RAP.wav」を挿入します。また、ウェーブブロックをダブルクリックして、ウェーブファイルの鳴るタイミングを L1=0002、L2=02、L3=290 に設定します。



10. プレイコントロールのプレイボタンをクリックすると、ソングの再生が始まります。ストップボタンをクリックすると、再生は停止します。



11. 同様の手順で他のウェーブファイルも組み合わせて、オリジナル曲を作ってみましょう。
他のウェーブファイルは、CD-ROM の「Demo」フォルダの中の「Additional Wave」フォルダに収録されています。
12. オリジナルソングが完成したら、[ファイル] メニューから [名前を付けて保存] を選択してソングファイルを保存します。

(NOTE) ウェーブデータも含めてセーブするときは、ファイルの種類として「XGworks Original File with Wave (*.XWS)」を選択してから保存してください。

ドライバの設定変更 (MIDI パッチ画面)

必要に応じて、コンピュータ側で選択するポート番号と UW500 の MIDI 入出力端子の関係を変更することができます。

シーケンスソフトなどの MIDI アプリケーションは、USB-MIDI ドライバを通じて UW500 と MIDI 信号の送受信を行なっています (P.22)。UW500 は MIDI IN/OUT 端子と TO TG 端子を持っており、使用する UW500 の入出力端子はコンピュータ側 (シーケンスソフト上) で選択します。このとき、ドライバの設定を変更することにより、ケーブルをつなぎ変えることなく、これらの関係を変更することができます。

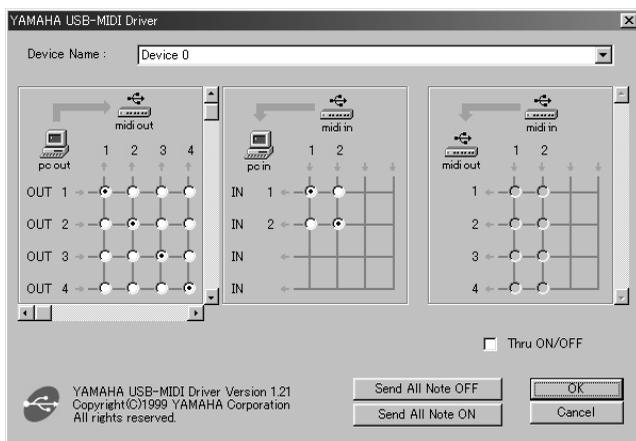
例えば、複数のポートに同じ MIDI 信号を送信したり、複数のポートから一つのポートへ MIDI 信号を重ねて送信したりすることができます。また、MIDI IN から MIDI OUT へ直接 MIDI 信号を出力することもできます。

ポート番号と入出力端子の関係は、以下のようになっています。また初期設定では、これらのポート番号とコンピュータ側のポート番号が一致しています。

ポート番号	MIDI 出力端子	MIDI 入力端子
ポート 1	MIDI OUT	MIDI IN
ポート 2	TO TG -A	TO TG
ポート 3	TO TG -B	-
ポート 4	TO TG -C	-
ポート 5	TO TG -D	-
ポート 6	TO TG -E	-

NOTE TO TG 端子に接続したお使いの MIDI 音源がマルチポートに対応していない場合は、B ~ E ポートを選択しても無効になります。

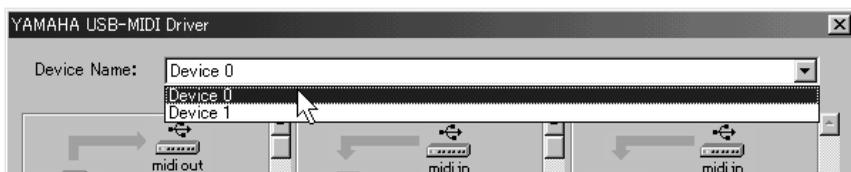
MIDI パッチ画面の起動



1. 「マイコンピュータ」の中の「コントロールパネル」をダブルクリックして開きます。
2. 「MIDI-USB Driver」をダブルクリックして起動します。

デバイス番号の変更

複数のヤマハの USB 対応機器を接続している場合は、必要に応じてデバイス番号を変更できます。「Device Name」の表示をクリックすると、ドロップダウンリストが表示されるので、設定を変更したいデバイスを選択します。



ドライバの設定変更 (MIDI パッチ画面)

信号送信の確認

MIDI 機器が正しく接続されているかを確認するために、MIDI 信号を送信することができます。



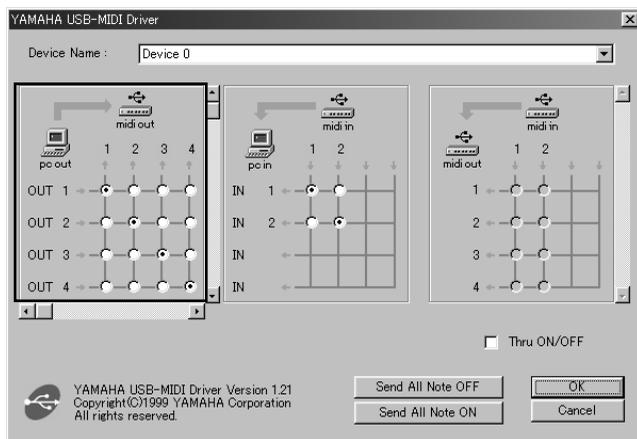
ノートオフメッセージ

[Send All Note OFF] をクリックすると、UW500 の全てのポートにオールノートオフの MIDI 信号が送信されます。

ノートオンメッセージ

[Send All Note ON] をクリックすると、UW500 の全てのポートにノートオンの MIDI 信号が送信されます。

再生時の接続の変更 (PC OUT MIDI OUT)



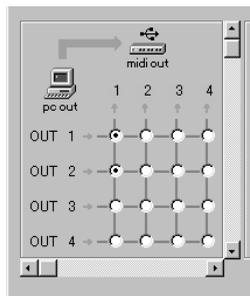
コンピュータの出力ポートから UW500 の出力ポートへの入出力関係を変更することができます。

左側の OUT1 ~ 6 がコンピュータの出力ポートを、上側の 1 ~ 6 が UW500 の出力ポートを表しています。初期設定では、それぞれ同じ番号どうしが接続されていますが、チェックボックスにチェックを入れることにより、変更することができます。縦方向に複数のチェックをつけた場合は、コンピュータの複数の出力ポートからの MIDI 信号を重ねて (マージ)、UW500 の一つの出力ポートに送信します。横方向に複数のチェックをつけた場合は、コンピュータの一つの出力ポートからの MIDI 信号を、UW500 の複数の出力ポートに送信します。

(NOTE) UW500 の入出力端子とポート番号の関係については、P.44 をご覧ください。

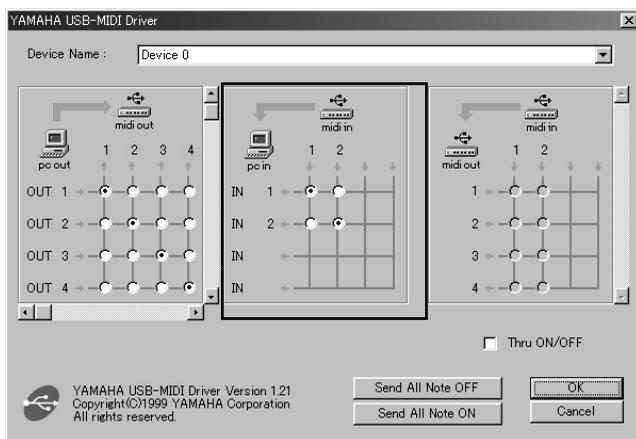
コンピュータの出力ポート 1 と 2 からの MIDI 信号を、UW500 の MIDI OUT1 (MIDI OUT 端子) に出力する場合

図のようにチェックを変更し、[OK] をクリックして設定を有効にします。



ドライバの設定変更 (MIDI パッチ画面)

録音時の接続の変更 (MIDI IN PC IN)

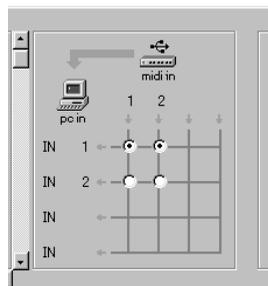


UW500 の入力ポートからコンピュータの入力ポートへの入出力関係を変更することができます。左側の IN1 と 2 がコンピュータの入力ポートを、上側の 1 と 2 が UW500 の入力ポートを表しています。初期設定では、それぞれ同じ番号どうしが接続されていますが、チェックボックスにチェックを入れることにより、変更することができます。

縦方向に複数のチェックをつけた場合は、UW500 の一つの入力ポートからの MIDI 信号を、コンピュータの複数の入力ポートに送信します。横方向に複数のチェックをつけた場合は、UW500 の複数の入力ポートからの MIDI 信号を重ねて (マージ)、コンピュータの一つの入力ポートに送信します。

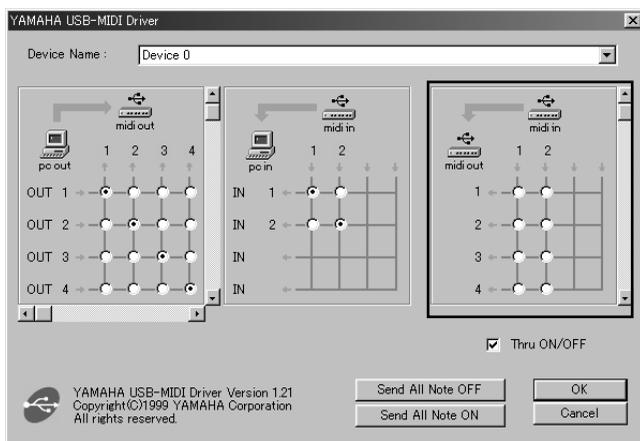
(NOTE) UW500 の入出力端子とポート番号の関係については、P.44 をご覧ください。

UW500 の MIDI IN1 (MIDI IN 端子)、MIDI IN2 (TO TG 端子) からの MIDI 信号を、コンピュータの入力ポート 1 に入力する場合
図のようにチェックを変更し、[OK] をクリックして設定を有効にします。



ドライバの設定変更 (MIDI パッチ画面)

MIDI 信号のスルー (MIDI IN MIDI OUT)



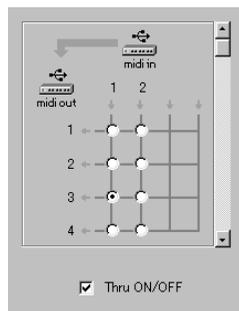
UW500 の入力ポートで受信する MIDI 信号を、UW500 の出力ポートへ直接出力 (スルー) することができます。MIDI キーボードなどからの MIDI 信号を直接音源に出力したい場合などに便利です。左側の IN1 ~ 6 が UW500 の出力ポートを、上側の 1 と 2 が UW500 の入力ポートを表しています。またこの機能を有効にするには、画面右下の「Thru ON/OFF」にチェックを入れます。

縦方向に複数のチェックをつけた場合は、UW500 の一つの入力ポートからの MIDI 信号を、UW500 の複数の入力ポートに送信します。横方向に複数のチェックをつけた場合は、UW500 の複数の入力ポートからの MIDI 信号を重ねて (マージ)、UW500 の一つの入力ポートに送信します。

(NOTE) UW500 の入出力端子とポート番号の関係については、P.44 をご覧ください。

MIDI IN1 (MIDI IN 端子) への入力を MIDI OUT3 (TO TG 端子の B ポート) へスルーする場合

画面右下の「Thru ON/OFF」にチェックを入れます。
図のようにチェックを入れ、[OK] をクリックして設定を有効にします。



仕様

オ - ディオ録音再生チャンネル数

	録音	ステレオまたはモノラル	1 系統
	再生	ステレオ	1 系統
信号処理	AD 変換	20bit	
	DA 変換	20bit	
接続端子	サンプリング周波数	32kHz、44.1kHz、48kHz	
	ヘッドフォン (標準ジャック) 端子		
	マイク / ギター / ライン入力 (標準ジャック) 端子 × 2		
	デジタル入力 (光角型プラグ) 端子		
	デジタル出力 (光角型プラグ) 端子		
	ライン入力 (RCA ピン L/R) 端子		
	AUX 入力 (RCA ピン L/R) 端子		
	ライン出力 (RCA ピン L/R) 端子		
	MIDI IN 端子 (16ch)		
	MIDI OUT 端子 (16ch)		
	TO TG 端子 (MIDI 出力 8ch、MIDI 入力 16ch)		
USB 端子			
DC IN 端子			
電源	電源アダプター (PA-3B)		
外形寸法	200(W) × 158(D) × 47(H) [mm]		
質量	800g		
別売品	シリアルケーブル YAMAHA CCJ-MAC 光デジタルケーブル (角型プラグ)		

仕様および外観は改良のため予告無く変更する場合があります。

故障かな？と思ったら (Q&A)

■ ドライバがインストールできない

- ・ USB ケーブルは正しく接続されていますか？
 - USB ケーブルの接続を確認してください (P.17)。
 - 一度 USB ケーブルを抜いて、再度挿入してください。
- ・ お使いのコンピュータ側で USB が使用可能になっていますか？
 - 初めて UW500 をコンピュータに接続した際、「新しいハードウェアの追加ウィザード」(P.22) が自動的に表示されないときは、コンピュータ側で USB を使用しない設定になっている場合があります。以下の方法で確認できます。
 1. 「コントロールパネル」中の「システム」をダブルクリックして開きます。
 2. 「デバイスマネージャ」のタブをクリックして、「ユニバーサル シリアルバス コントローラ」や、その下にある「USB ルート ハブ」などに「！」や「x」のマークがついていないことを確認してください。
「USB ルート ハブ」などに「！」や「x」のマークがついている場合は、USB が使用できない設定になっています。詳細については、お使いのコンピュータの取扱説明書をご参照ください。
- ・ 不明なデバイスが登録されていませんか？
 - 何らかの原因によりドライバのインストールに失敗すると、UW500 が「不明なデバイス」として認識されてしまいます。以降インストールができなくなる場合がありますので、以下の手順で「不明なデバイス」を削除してください。
 1. 「コントロールパネル」中の「システム」をダブルクリックして開きます。
 2. 「デバイスマネージャ」のタブをクリックして、「種類別に表示」にチェックが入った状態で、「その他のデバイス」がないか確認します。
 3. 「その他のデバイス」がある場合、ダブルクリックして、その下に「不明なデバイス」があれば、選択して [削除] ボタンをクリックします。
 4. USB ケーブルを UW500 から抜いて、接続し直します。
(NOTE) このとき、UW500 の電源は切っておいてください。
 5. 以下、P.23 の手順 3 以降に従って、ドライバをインストールし直します。

■ UW500 が正常に動作しない、または音が鳴らない

- ・ ドライバはインストールしましたか (P.22)？
- ・ USB ケーブル、MIDI ケーブルやオーディオケーブルなどは正しく接続されていますか (P.16)？
- ・ 音源、オーディオ機器、アプリケーション、OS などの音量設定は上がっていますか？
- ・ ご使用のシーケンスソフトで適切なポートを選択していますか？
- ・ 音源の HOST SELECT スイッチは正しく設定されていますか？
 - MIDI IN/OUT 端子と接続している場合は「MIDI」に、TO TG 端子と接続している場合は、「PC-1」または「Mac」に設定してください。

故障かな？と思ったら (Q&A)

- ・ 他の USB 機器を使用していませんか？
→ 他のUSB機器も接続している場合は、ヤマハのUSB機器だけを接続して問題がないか確認してください。
- ・ ドライバは最新のをインストールしましたか？
→ 巻末に記載されているヤマハホームページやニフティサーブから最新のドライバをダウンロードできます。
- ・ (音楽 CD を再生できない場合)
→ 「このCD-ROM デバイスでデジタル音楽 CD を使用可能にする」にチェックを入れてください (P.30)。
- ・ (MD や CD プレーヤーからのデジタル入力がない場合)
→ INPUT SELECT スイッチは正しく設定されていますか (P.14)？

■ 音が途切れる、または歪む

- ・ お使いのコンピュータは推奨環境を満たしていますか (P.11)？
- ・ 他のアプリケーションやデバイスドライバや USB デバイス (スキャナ、プリンタなど) は動作していませんか？
→ 不要なアプリケーションなどは終了してください。
- ・ ウェーブの録音と再生を同時に行なっていませんか？
→ ウェーブの録音と再生を同時に行なうと、お使いのコンピュータによっては、再生音が途切れ、ノイズが聞こえることがあります。XGworks をお使いの場合は、録音が優先的に処理されます。
- ・ 数分にわたるオーディオデータの録音 / 再生をしていませんか？
→ お使いのコンピュータによっては、オーディオデータの処理速度や外部記憶装置へのアクセスなどのさまざまな要因により、処理能力が低下する場合があります。その場合、以下のように設定を変更することで改善できる場合もあります。

[コントロールパネル] [マルチメディア] [オーディオ] [詳細プロパティ]

ハードウェア アクセラレータ: 最大

サンプルレート変換の質: 標準

[コントロールパネル] [システム] [デバイスマネージャ] [ディスクドライブ]

または [ハードディスクコントローラ]

高速に使用するモードに設定 (DMA モードをオンにするなど)

高速なドライバにアップデート

(NOTE) ドライバのアップデートについては、ハードディスクメーカーのホームページなどでご確認ください。

[コントロールパネル] [システム] [パフォーマンス]

(NOTE) コンピュータについて詳しい知識のある方以外、この設定は変更しないことをおすすめします。

ファイルシステムが適正に設定されているかなどをご確認ください。また、空きメモリが十分(128MB以上)あり、録音再生するウェーブファイルがそれほど大きくない場合、仮想メモリの設定を変更することで改善できる場合もあります。

その他、お使いのコンピュータによっては、ハードディスクコントローラなどのデバイスドライバやBIOSなどのアップデートが必要な場合もあります。詳しくは、お使いのコンピュータのサポート窓口やホームページなどをご確認ください。

■ 正常にサスペンド、レジュームができない

- ・ UW500の電源がオンの状態でサスペンドに移行していませんか?

■ MIDI対応のゲームでUW500を使いたい

→ 「コントロールパネル」の中の「マルチメディア」をダブルクリックして開きます。「MIDI」のタブをクリックして、接続している音源のポート番号に合わせてドライバを選択してください(P.29)。

■ XGworksでウェーブデータとMIDIデータの同期がずれる

- お使いのコンピュータによっては、ウェーブデータとMIDIデータの同期がずれる場合があります。その場合、XGworksの曲の最後に空のウェーブデータを挿入してください。
- XGworksの[設定]メニュー [システムセットアップ]のDeviceページで、使用しないデバイスは選択しないでください。

ユーザーサポートのご案内

ユーザー登録のお願い

弊社では、ユーザーの方々をサポートし、関連情報をご提供するために、付属のアプリケーションソフトウェアをご購入いただいたお客様を登録させていただいております。

つきましては、お手数とは存じますが、製品に同梱しております「ユーザー登録カード」に必要な事項をご記入の上、至急ご返送くださいますようお願い申し上げます。弊社にてお客様の登録を行ない、折り返しユーザーID番号をご案内いたします。このユーザーID番号は弊社が以下のサポートをさせて頂く際に必要な番号ですので、大切に保管してください。(ユーザーID番号は、アプリケーションソフトをインストールする際に入力する番号とは異なります。)

ユーザー登録手続きを完了された方に限り、以下のサポートを行なわせていただきます。

ご注意

サービスの種類によっては、CD-ROM ディスク(以下ディスクと呼ぶ)の返送が必要になりますが、その際お送りいただいたディスクが弊社製品と確認できない場合、サポートサービスはお受けになれません。あらかじめご了承ください。

無償サポートサービスについて

1. ご購入時に正常に動作しないディスクの修復

製品には万全を期しておりますが、万一ディスクに記録されたプログラムなどの内容が、ご購入時にすでに破壊や欠損を起こしていたために正常に動作しない場合、ディスクの内容を修復(交換またはフロッピーによる修復)いたします。

下記の「ディスク修復のお申し込み方法」に従ってお申し込みください。

* 「ご購入時」とは、製品をお求めいただいてから14日以内とさせていただきます。

* お送りになる前に、お送りいただく旨を、必ず下記の「CBX インフォメーションセンター」までご連絡ください。

ディスク修復のお申し込み方法

1. 修復に必要なディスクのほかに、「ユーザー登録カード」に必要な事項(ご住所、お名前、電話番号)をご記入の上、動作の状態などを明記した文書をご同封ください。宛先は次ページの「CBX インフォメーションセンター」です。
2. 返送の途中でディスクが破損しないように十分注意して包装してください(返送の途中でディスクが破損または紛失した場合、弊社では責任を負いかねます)。
3. ご返送には、郵便書留か宅配便をご利用ください(宅配便の場合は、着払(弊社負担)をご利用いただけます)。

2. 質問の受付

ユーザー登録手続きを完了された方に限り、本製品の使用方法や関連情報などについて、電話やお手紙による質問をお受けいたします。下記の「CBX インフォメーションセンター」までお問い合わせください。

お問い合わせの際には、製品名、ユーザー ID 番号、ご住所、お名前、電話番号を必ずご明示ください。また、ご使用のパソコンの種類、操作の手順やそれによる結果と状態、入力されたデータの内容なども詳しくお知らせください。お客様からの情報が不足している場合は、ご返事できない場合があります。

CBX インフォメーションセンター
〒 430-8650 静岡県浜松市中沢町 10-1
ヤマハ(株)CBX インフォメーションセンター
TEL:053-460-1667

受付日月曜日～金曜日(祝祭日およびセンターの休業日を除く)

受付時間 10:00～12:00/13:00～17:00

*ユーザーサポートサービスは日本国内においてのみ有効です。

住所 / 氏名の変更 (同一使用者の範囲内)

ご登録いただいた「ご住所」、「お名前」などを変更された場合は、「製品名」、「ユーザー ID 番号」、「旧住所 / 旧氏名」、「新住所 / 新氏名」を明示の上、ご面倒でも CBX インフォメーションセンターまで郵便でご通知ください。折り返し手続き完了のご連絡をさせていただきます。

有償サポートサービスについて

1. 有償サポートサービスの内容

お客様が本製品を使用中に、ディスクを破損された場合、有償でディスクの内容を購入時と同等に修復(交換またはフロッピーによる修復)いたします。必要事項をご記入の上、手数料(¥5,000:消費税込み)と破損したディスクを添え「有償サポートサービスのお申し込み方法」にしたがってお申し込みください。

* 有償サポートサービスの受付期間は、お客様が本製品をご購入後、一年以内とさせていただきます。

* お申し込みになる前に、必ず CBX インフォメーションセンターまでご連絡ください。

ユーザーサポートのご案内

2. 有償サポートサービスのお申し込み方法

CBX インフォメーションセンター宛に直接お申し込みください。

このサービスは、お買い上げの販売店では、受け付けておりません。

1. 下記の「破損ディスク修復申込書」に必要事項をもれなくご記入の上、手数料とともに、CBX インフォメーションセンターまで現金書留にてお送りください。

* お客様からの CBX インフォメーションセンターへの送料は、お客様にてご負担ください。

2. CD-ROM を送付される場合は、ご住所、お名前、電話番号、ユーザー ID 番号を明記して、CBX インフォメーションセンターまで、郵便書留にてお送りください。なお、郵送の途中でディスクが破損しないように、十分注意して包装してください。

* 普通郵便などでお送りになられた際の事故につきましては、当社では責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

* 必ずご登録いただいたご住所、お名前でお申し込みください。

* お申し込みいただきましたディスク（または修復データを収録したフロッピー）は、手数料の確認の後、登録されたご住所に発送いたします。お申し込み後、2 週間過ぎても製品が届かない場合は、CBX インフォメーションセンターまでご連絡ください。

破損ディスクの修復申し込み

有償サポートサービスの「破損ディスクの修復」の申し込みをされる場合は、下の申込書をコピーしてご使用ください。

「UW500」破損ディスク修復申込書

ご住所 -

お名前

電話番号

E-mail アドレス

ユーザーID 番号

破損ディスク「UW500」CD-ROM

破損ディスクの修復の手数料は ¥5,000(消費税込) です。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのヤマハ電気音響製品サービス拠点にご連絡ください。

保証書

本機には保証書がついています。

保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

保証期間

お買い上げ日から 1 年間です。

保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

下記の部品については、使用時間により劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要となります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

消耗部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、フロッピーディスクドライブなど

補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後 8 年です。

持込み修理のお願い

まず本書の「故障かな?と思ったら」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へ本機をご持参ください。

製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

ヤマハ電気音響製品サービス拠点(修理受付)および修理品お持ち込み窓口

北海道サービスセンター	〒064-8543	札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内	TEL(011)512-6108
仙台サービスステーション	〒984-0015	仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F	TEL(022)236-0249
首都圏サービスセンター	〒211-0025	川崎市中原区木月1184	TEL(044)434-3100
浜松サービスステーション	〒435-0016	浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内	TEL(053)465-6711
名古屋サービスセンター	〒454-0058	名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F	TEL(052)652-2230
大阪サービスセンター	〒565-0803	吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内	TEL(06)6877-5262
四国サービスステーション	〒760-0029	高松市丸亀町8-7 (株)ヤマハミュージック神戸 高松店内	TEL(087)822-3045
広島サービスステーション	〒731-0113	広島市安佐南区西原6-14-14	TEL(082)874-3787
九州サービスセンター	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4	TEL(092)472-2134
[本社] CSセンター	〒435-0016	浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内	TEL(053)465-1158

デジタル楽器に関するお問い合わせ窓口

EM 北海道営業所	〒064-8543	札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内	TEL(011)512-6113
EM 仙台営業所	〒980-0804	仙台市青葉区大町2-2-10	TEL(022)222-6147
EM 東京事業所	〒108-8568	東京都港区高輪2-17-11	TEL(03)5488-5476
EM 名古屋営業所	〒460-8588	名古屋市中区錦1-18-28	TEL(052)201-5199
EM 大阪事業所	〒542-0081	大阪市中央区南船場3-12-9 心齋橋ブラザビル東館	TEL(06)6252-5231
EM 広島営業所	〒730-8628	広島市中区紙屋町1-1-18 ヤマハビル	TEL(082)244-3749
EM 九州営業所	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4	TEL(092)472-2130
PA・DMI事業部 DE営業部	〒430-8650	浜松市中沢町10-1	TEL(053)460-2432

[ヤマハホームページ](http://www.yamaha.co.jp/)
[ヤマハマニュアルライブラリー](http://www2.yamaha.co.jp/manual/japan/)
[ニフティサーブ](#)
[電子会議](#)
[データライブラリー](#)

<http://www.yamaha.co.jp/>
<http://www2.yamaha.co.jp/manual/japan/>
 「GO FMIDIVA」コマンドで FMIDIVA に入ると、ヤマハデジタル楽器および DTM 製品のフォーラムがございます。
 #16 ヤマハ Synth & CBX 情報ボード
 #17 ヤマハ Synth & CBX ユーザーズカフェ
 #18 ヤマハ Synth & CBX 相談室
 #8 ヤマハ / デジタル CBX

所在地・電話番号などは変更されることがあります。

ソフトウェアのご使用条件

弊社では本ソフトウェアのお客様によるご使用およびお客様へのアフターサービスについて、<ソフトウェア使用許諾契約>を設けさせていただいており、お客様が下記条項にご同意いただいた場合にのみご使用いただけます。

ディスクの包装を解かれた場合は下記条項にご同意いただけたものとさせていただきますので、下記条項を充分お読みの上開封してください。

ご同意いただけない場合は、未開封のまま速やかに(14日以内にご返却ください(ただし、本ソフトウェアをソフトウェアパッケージの一部として、またはハードウェア商品の付属ソフトウェアとしてお求めいただいた場合、本ソフトのみの返却はお受けいたしません)。

ソフトウェア使用許諾契約

1. 著作権および使用許諾

弊社はユーザー登録されたお客様に対し、本ソフトウェアを構成するプログラム、データファイル及び今後お客様に一定の条件付きで配布され得るそれらのバージョンアッププログラム、データファイル(以下「許諾プログラム」といいます)を、お客様ご自身が一時に一台のコンピュータにおいてのみ使用する権利を許諾します。これらの許諾プログラムが記録されているディスクの所有権は、お客様にあります。許諾プログラム自体の権利及びその著作権は、弊社が有します。

2. 使用制限

許諾プログラムは著作権を持つ情報を含んでいますので、その保護のため、お客様が許諾プログラムを逆コンパイル、逆アセンブル、リバース・エンジニアリング、またはその他の方法により、人間が感得できる形にすることは許されません。許諾プログラムの全体または一部を複製、修正、改変、賃貸、リース、転売、頒布または許諾プログラムの内容に基づいて二次的著作物をつくることは許されません。許諾プログラムをネットワークを通して別のコンピュータに伝送することも許されません。

3. 終了

本使用条件はお客様が許諾プログラムをお受け取りになった日に発効します。本使用条件による使用許諾は、お客様が著作権法または本使用条件の条項に1つでも違反されたときは、弊社からの終了通知がなくても自動的に終了するものとします。その場合には、ただちに許諾プログラムとその複製をすべて廃棄しなければなりません。

4. 製品の保証

弊社は、お客様が許諾プログラムをお受け取りになった日から14日間に限り、媒体に物理的な欠陥があった場合には、その原因が事故、乱用、誤用など弊社の責に帰さない事由による場合を除き、無償で同種の良品と交換させていただきます。

5. 責任の制限

弊社は、許諾プログラムの使用、またはそれを使用できなかったことにより生じた直接的、派生的、付随的または間接的損害(データの破損、営業上の利益の損失、業務の中断、営業情報の損失などによる損害を含む)については、通常もしくは特別の損害に拘わらず、たとえそのような損害の発生や第三者からの賠償請求の可能性があることについて予め知らされた場合でも、一切責任を負いません。

6. 第三者のソフトウェア

弊社は、本ソフトウェアとともに、第三者のプログラム、データファイルおよびそれに関するドキュメンテーション(以下「第三者ソフトウェア」といいます)を提供する場合があります。別の規定に従い取り扱われるべき旨の記載が、本ソフトウェア付随のマニュアルに記載されている場合には、本使用条件にかかわらず、その別の規定に従い取り扱われるものとし、弊社によるアフターサービスおよび保証などについては、以下の規定が適用されるものとします。

弊社は、第三者ソフトウェアに関しての操作方法、瑕疵その他に関してアフターサービスを提供するものではありません。

弊社は、第三者ソフトウェアの商品性、および特定目的に対する適合性の保証その他一切の保証を、明示であると黙示であることを問わず、一切いたしません。第三者ソフトウェアの使用もしくは機能から生じるすべての危険は、お客様が負担しなければなりません。

弊社は、第三者ソフトウェアの使用、またはそれを使用できなかったことにより生じた直接的、派生的、付随的または間接的損害(データの破損、営業上の利益の損失、業務の中断、営業情報の損失などによる損害を含む)については、通常もしくは特別の損害に拘わらず、たとえそのような損害の発生があ

7. 一般事項

本契約は、日本法の適用を受け、日本法に基づいて解釈されるものとします。

ヤマハ株式会社

V000000

XXX XXX 00

M.D.G., PA•DMI Division, Yamaha Corporation
©2000 Yamaha Corporation